



Duet デュエット

Vol. 34

2013.3

◆DV 防止セミナーを開催

◆メディア・リテラシー講座「メディアとうまく付き合う方法」

◆「自分で決めて、生きていく」

東日本大震災を経験して…

高橋美江さん

◆上尾市地域防災計画が改訂されます

◆Stop! デートDV

◆女性のための相談



市男女共同参画推進センター主催

DV 防止セミナーを開催

どんな人間関係にも起こり得る身近な問題

平成24年11月22日、文化センター小ホールにおいて、深澤泰子さん（男女共同参画センター・女性のための相談カウンセラー）を講師に迎え、上尾市男女共同参画推進センター主催のDV（ドメスティック・バイオレンス）防止セミナーが開催されました。当日は、市民の皆さんのほか、民生委員・主任児童委員、男女共同参画審議会委員、関係する市職員等が参加しました。

DV は結局のところ「力と支配」です。繰り返し継続的に行われ、それがエスカレートしていくうちに被害者は混乱し、

親密な関係にあるなかで行われるため、第三者からは理解されにくくなります。暴力とは、身体的暴力のほか、言葉による精神的暴力、性的暴力、社会的暴力、経済的暴力も含まれます。

しかし、社会の中で暴力を甘く見る風潮があり、今後、仕組みを変えていく必要があること、被害者へのサポートやケアは時間がかかるので、周囲の協力が必要とされること、などの問題点が示されました。

DV はどんな人間関係にも起こり得ます。「身近な問題として考えることがDVをなくすことにつながる」ということを考えさせられた講演会でした。



メディア・リテラシー講座 「メディアとうまく付き合う方法」

男女共同参画の視点から考えるメディア・リテラシー

平成25年1月19日、講師にメディアジャーナリストの渡辺真由子さんをお迎えし、上尾市男女共同参画推進センターと市女性団体協議会共催によるメディア・リテラシー講座が文化センターにおいて開催されました。メディア・リテラシーとは、「メディアの特質、手法、影響を批判的に読み解く」能力と「メディアを使って表現する」能力のことをいいます。

講座の中で、「ジェンダー（社会的・文化的な性のありよう）とメディア」という視点から、メディアのジェンダー表現についてのお話がありました。ジェンダー表現とは「女らしさ、男らしさ」、「女の役割、男の役割」といった社会的・文化的に形成された性別を印象付けるような表現のことです。

元宇宙飛行士の山崎直子さんが2010年にスペースシャトルに搭乗したとき、メディアは山崎さんを「ママさん宇宙飛行士」という切り口でこぞって取り上げました。「宇宙飛行士」ということだけでなく、妻であり母であり、という部分も含めた人物紹介になるのです。また、こういった報道により、育児は女性がするもの、という性別役割分担意識が情報の受け手に刷り込まれていくのです。

メディアは受け手がわかりやすいということで、典型的な性別役割分担のイメージを利用して



情報を発信します。それが個人のアイデンティティ形成に影響を与え、社会全体に影響を及ぼしていきます。

このようなメディアにおける表現に偏りがあることの要因として、メディアの作り手である記者や管理職に女性が少ないことや、スポンサー、視聴者にもジェンダー表現に対する問題意識が浸透していないということがあります。

講師の渡辺さんは、メディア・リテラシーを身に付けるために、「情報を一歩引いた目線で眺め、発信者の意図を考えるクセをつける。」とまとめておられました。メディアの受け手として、情報に流されない目を養う必要があるとあらためて考えさせられる講座でした。

あなたの生き方を考える
この一冊

BOOK

『オトナのメディア・リテラシー』 渡辺真由子著

リベルタ出版

本書ではメディアジャーナリストである著者が、テレビ局に勤務していた経験と、カナダに留学しメディア分析理論を学んだことをもとに、広告、テレビ、新聞から映画、インターネットまで、メディア全般の読み解き方について解説しています。

大手メディアは客観的な報道に努めていると主張していますが、様々なテクニックを用いることで、各メディアの持つイデオロギー（特定の物の考え方）を反映させた情報であっても客観的であるように見せかける、公正・中立とは評価できない現状があるようです。

メディアの作り手がどのような意図を持って、どのようなテクニックを用いて情報を発信しているのか、そしてメディアのもたらす影響の大きさについて事例を交えながら説明されています。それにより、情報の受け手側は情報を鵜呑みにしないこと、またメディアからの情報があふれている社会において、大人にも子供にもメディア・リテラシー教育が求められることが理解でき、情報を上手に活用することを意識するきっかけとなる一冊です。



上記図書を含め、男女共同参画推進センター（市役所第3別館1階）では、男女共同参画に関する図書の貸し出しを行っています。（市内に在住・在勤・在学の方で2週間まで。祝日・年末年始を除く月～金曜日の午前8時30分～午後5時）



「自分で決めて、生きていく」

東日本大震災を経験して…

たかはし よしえ
高橋 美江さん

宮城県石巻市出身 上尾市在住



高橋さんは、東日本大震災が起こるまで、日本有数の捕鯨基地として栄えた鮎川港近くの、宮城県石巻市十八成浜くぐなりはまにお一人で住んでいました。東日本大震災から2年。息子さんが埼玉県に住んでいるご縁で、現在は、奇跡的に助かった愛犬とともに上尾市に居を移し、積極的に活動をされています。

Q 被災直後の様子を教えてください。

A 石巻市中心部のカルチャーセンターで水墨画の教室に参加していたところ、東北地方太平洋沖地震に見舞われました。当初は、被害の状況もわからず、カルチャーセンターに足止めされていました。3週間ほどして、やっとのことで自宅に戻ってみると、自宅は津波でなくなって、ひしゃげた家の2階部分が高台に流されていました。見つかったのは泥だらけになったコート1枚だけ。大事に持って帰りました。その後は避難所で生活をしていました。

Q 避難所で女性が抱えた悩みなどありましたか？

A 十八成浜近くの避難所では更衣室がなかったので、女性は順番で見張りをしながら着替えをしていました。また、最初に避難した駅前の石巻市役所には、駅周辺にいた多くの人が避難してきていました。当時はプライバシーの配慮など考える余裕がありませんでしたが、食欲もなく、眠れないような状態のときに、間仕切りもなく、隣の人が誰かも分からないままの生活は大変でした。

Q 現在の石巻市での生活はいかがですか？

A 外出するのが嫌になった時もありましたが、水彩画や細工寿司*を習ったり、出かけるときはおしゃれをしたり、自分で気持ちを前向きにしています。

今では、細工寿司を上尾の仲間に教えたりしています。石巻に帰ったら皆に作ってあげたいと思って上尾に来てから習い始めたのですが、今は上尾ですと生活すると決め、仲間と楽しく過ごしています。自分で決めて、自分で生きていくしかないですからね。

*細工寿司とは、千葉県に昔から伝わる太巻き寿司で、たくあん、ニンジン、キュウリなど様々な食材を配置して、太巻きの断面に絵柄を表現したものです。

「上尾市地域防災計画」が改訂されます

平成20年3月に現行の地域防災計画の策定をしてから5年が経過しました。市では、この間に発生した東日本大震災発生時の問題点や課題を踏まえ、また、今まで想定できなかった災害に対して速やかな対応が実施できるよう、計画の見直しを行っています。

計画の見直しにあたり、男女共同参画の視点を生かし、高齢者、障害者、乳幼児、妊産婦、外国人など、被災した人々の多様性に配慮しています。

災害は突然やってきます。非常時には、日常潜在化していた問題が表面化してきます。もしもの時に備えて、日頃から地域の防災計画に関心を持ち、日常の防災活動を見直してみましょう。

～男女共同参画の視点から検討していること～

- 避難所の運営において、男女別更衣室、男女別トイレ、授乳場所、クールダウンスペース*を開設当初から設置するよう努める。
- 女性に対する暴力を予防するため、更衣室、トイレの設置場所に配慮し、注意喚起に努める。
- 性暴力や性犯罪の防止対策、相談支援体制を設ける。

*気持ちを落ち着かせることが出来る空間

Stop! デートDV

DV（ドメスティック・バイオレンス）は大人や夫婦間にだけ起こるものではありません。結婚していない恋人同士における暴力を「デートDV」といいます。

身体的な暴力だけでなく、束縛などの精神的な暴力や経済的な暴力、性的な暴力など様々な暴力があります。

彼／彼女が好きだから「自分だけを見ていてほしい」「自分のことを最優先にしてほしい」と思うかもしれません。でも、そんな気持ちを暴力でかなえようとすると、それはデートDVです。

彼／彼女が…

デートDVチェックリスト

- メール返信をすぐに返さないで怒る
- メールをチェックする
- 「バカ」「ブス」「デブ」などバカにしたことを言う
- ほかの人と仲良くしていると責めたり、友達付き合いを制限したりする
- 殴ったり、けったり、髪の毛を引っ張ったりする
- 自分の言うことを聞かないで怒る、大声を出す、物を投げつける
- キスや性行為を無理に要求したり、避妊に協力しない

一つでも該当すれば、デートDVにつながる可能性があります。

～ひとりで悩まないで～

高校生や大学生の間でもデートDVの被害が報告されています。二人の関係は大丈夫？
何か不安に思うことがあったら、下記に相談してください。

女性の ための 相談

男女共同参画推進センター（市役所第3別館1階）では、自分の生き方や家族内の悩み、離婚問題、DVなど様々な悩みを抱えている女性のために相談室を開設しています。

いずれも女性のカウンセラー・弁護士が対応しています。個人の秘密は厳守しますので、お気軽にご相談ください。（相談無料）

◎ 女性のための相談（カウンセラーによる相談）

日時 毎週水曜日午前10時～正午・午後1時～4時
（祝日・年末年始・第5水曜日を除く）

相談時間 50分間 ※面接・電話相談可

対象 市内在住・在勤の女性

【予約制：相談月の前の月の1日から受付】

◎ 女性のための法律相談（弁護士による相談）

日時 毎月第3火曜日
午後1時～4時

相談時間 30分間 ※面接相談のみ

対象 市内在住の女性

【予約制：相談月の前の月の1日から受付】

相談のご予約、お問い合わせについては、下記専用電話までお電話ください。

★ 相談専用電話：778-5110 受付時間：月～金 午前8時30分～午後5時 ★

編集 後記

今号はドメスティック・バイオレンス、メディア・リテラシーなどカタカナ語が多く使われています。これらは日本語として十分に定着した言葉ではないかもしれませんが、簡単な言い換えが難しいこともあってそのまま使われているというのが現状です。

東日本大震災にめげず、イキイキと生活されている高橋さんに感服です。

（編集協力員：兩宮 悦男・林 博一・藤田 真紀子）

■本紙へのご意見・ご感想をお待ちしています。（氏名、住所、電話番号、性別、年代をご記入ください。）